

◇平成29年／2017年5月号 第87号◇

会 産経国際書会 報



フジサンケイグループ

SANKEI INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION



平成29年度総会で挨拶をする熊坂隆光会長（産経新聞社代表取締役社長）。
ジュニアから高齢者まで、生涯途切れることなく自らが書道を楽しみ、そして日本文化としての書道の良さを海外に発信していくのが、われわれ産経国際書会のあるべき姿です。
そして、来年予定される「日本台湾交流書道展」を成功させ、「国際」を冠する産経書会の名前を再び世界に広める第一歩としようではありませんか。



産経新聞社
代表取締役社長
熊坂 隆光

35周年に向けて

今年は、新たに150人以上の仲間をお迎えすることができました。新しい会員の皆様には、先輩諸氏を見習ってさらに研鑽を積まれ、大いに活躍をしていただきたいと思います。

産経国際書展は今年7月に第34回展を迎えます。今年からは、ジュニア書道コンクールも同時期に東京都美術館で行うことになりました。将来の書道会を担うジュニアの精鋭たちが最高峰の作品に触れる機会を提供し、また会の皆様にもジュニアの作品が持つ若い息吹を吸収することで、次の創作へのエネルギーにさせていただこう、というのが狙いです。

これにあわせて、今年から国際書展では会友賞の増加、会友特別賞の新設も決めました。さらに、ジュニアの高校生A出品者には本展U23の出品料を無料とする、ジュニアから本展への架け橋も作りました。これらはすべて、書会の足腰を強くし、ジュニアからご高齢の方々まで雄々しく楽しく、息長く活躍していただこうと考えたものです。

来年は国際書展の35周年を迎えます。記念事業の第1弾として、18年ぶりとなる海外展を台湾で実施することが決まりました。それ以外にも多くの記念プランが検討されていると聞いています。少子高齢化、活字離れは大きな問題ではありますが、35周年を弾みに、それに負けない産経国際書会のパワーをみせようではありませんか。

今年一年の先生方のご健勝、ご健筆をお祈りいたします。



産経国際書会
理事長
風岡 五城

新年度への決意と期待

新年度執行部は任期2年の後半の年を迎え、一つの区切りをつける年となりました。4月に総会を終え、5月下旬には第34回展の審査会。そして7月には本展、9月以降は地方展と続く基本的な活動の流れは例年と変わりはありませんが、惰性に流れることなく、書会の基本理念をふまえつつ一層の充実を図っていかねばならぬと意を新たにしているところです。

今年度は来年の35回記念展に向けての準備期間として大事な時期となります。以前から折にふれて申し上げてきました国際交流も記念展とからめて、いよいよ具体化へ進みはじめました。詳しくは14ページに紹介してあります、ご覧ください。その他の記念事業についても検討をはじめています。対外的には書会の存在感を高め、内部的には活性化につながる内容を考えています。

第34回展の出品状況については現時点では不明ですが、今年からジュニア展が同時期、同会場となり全世代の作品が一堂に会することになります。相乗効果で盛り上がることを期待しています。また研修会については、昨年までとは違う趣で実施できればと計画中です。

書会の皆様にはご理解、ご支援をいただきますようよろしくお願い致します。

平成29年 産経国際書会総会 開催



挨拶をする風岡理事長

平成29年度産経国際書会の第33期通常総会が4月18日、東京千代田区の手町サンケイプラザで開かれました。はじめに産経国際書会会長である熊坂隆光産経新聞社社長から「35回記念展に向けた準備を進め、書を通じた国際交流の道を探りたい。また、新聞社は書会のために何ができるのかを真剣に考え、努力するので皆様方からの忌憚のないご意見を頂戴してより良い会にしていきたい」と挨拶がありました。議長に風岡五城新理事長、議事録署名人に鎌田悠紀子、山本晴城常務理事が選出されました。そして、32期事業、決算の報告

があり、33期計画、予算などを審議し、各議案とも満場一致で承認されました。



総会後の懇親会で和気藹々

議案

1. 平成28年度・第32期(平成28年4月1日～29年3月31日)の事業報告
2. 平成28年度・第32期(平成28年4月1日～29年3月31日)の収支報告
3. 平成29年度・第33期(平成29年4月1日～30年3月31日)の事業計画
4. 平成29年度・第33期(平成29年4月1日～30年3月31日)の予算
5. 人事案件

第32期 事業報告

◆第33回産経国際書展

審査日 平成28年5月31日(火)～6月3日(金)

会場 シアター1010ギャラリー
(東京・北千住駅マルイ11F)

会期 7月25日(月)～31日(日)

会場 東京都美術館
作品数6,019点 入場者4,276人

イベント ギャラリートーク：25日(月)金丸鬼山副理事長(企画部)の進行で、高円宮賞の多田游硯常務理事、内閣総理大臣賞の原田圭泉常任顧問、中国大使館文化部賞の上野鶴陽常務理事、会長賞の加藤松亭、山本てるみ、国際大賞の堀川梨華各審査会員が自作について語った。

書道講演会：27日(水)「筆のはなし」
久保田哲暁(一休園会長)

揮毫会：30日(土)山下海堂名誉顧問、
原田圭泉常任顧問

贈賞式・祝賀会 7月26日(火)明治記念館

◆2016産経ジュニア書道コンクール

会期 平成28年8月12日(金)～20日(土)

会場 東京都美術館 2階第2展示室
作品数8,489点 入場者数3,345人

贈賞式 8月17日(水)東京都美術館講堂

揮毫会 特別賞受賞者11人が参加し展覧会場で実施

◆研修会・懇親会

会期 平成28年8月20日(土)・21日(日)

会場 大手町サンケイプラザ4階ホール(東京都千代田区大手町)

内容 書技向上と会員の交流を目指した研修会と懇親会。
参加者はのべ262人

講師 20日(土)＝岩浅写心副理事長(落款印)、
村越龍川最高顧問(臨書)、
齋藤香坡最高顧問(書への取り組み)
21日(日)＝青陽如雲常任顧問(文字学)、
田中鳳柳最高顧問(古典書論)

◆大阪研修会・懇親会

会期 平成28年9月22日(木・祝)

会場 プリーゼプラザ7階小ホール(大阪市北区梅田)

内容 書技向上と会員の交流を目指した研修会と懇親会。参加無料。
134人参加、うち71人が一般参加者

講師 風岡五城理事長(漢字の字体と字形)、
岩浅写心副理事長(落款印)

◆第33回産経国際書展 東北展

会期 平成28年9月9日(金)～14日(水)

会場 仙台市・せんだいメディアテークギャラリー6階
作品数215点 入場者数約1,500人

贈賞式 9月11日(日)ホテルメトロポリタン仙台

講演 原田圭泉常任顧問「『現代書雑誌』圭泉のひとりごと」(贈賞式にて)

◆第33回産経国際書展 瀬戸内展

会期 平成28年9月27日(火)～10月2日(日)

会場 広島市・広島県立美術館
作品数321点 入場者数約2,000人

贈賞式 9月30日(金)広島ガーデンパレス

作品解説 世木田江山実行委員長(常務理事)の進行で瀬戸内展特別賞受賞者7人による自作解説が行われた(30日午前、美術館にて)

◆第33回産経国際書展 関西展

会期 平成28年11月22日(火)～27日(日)

会場 大阪市立美術館
作品数393点 入場者数約3,000人

贈賞式 11月27日(日)天王寺都ホテル

◆第33回産経国際書展 中部展

会期 平成28年11月29日(火)～12月4日(日)

会場 愛知県美術館ギャラリー
作品数391点 入場者数約2,000人

贈賞式 12月3日(土)キャッスルプラザ

作品解説 村越龍川最高顧問、風岡五城理事長(3日午後3時半から展覧会場にて)

◆平成28年度理事会

会期 平成28年12月5日(月)

会場 大手町サンケイプラザ303・304号室

参加 出席者64人 委任状提出者107人
合計171/186人(91.9%)

◆第33回産経国際書展 新春展

大作審査 平成28年9月15日(木)

国立新美術館 地下1階審査室

Ⅱ(公募)審査 平成28年12月2日(金)

国立新美術館 地下1階審査室

会期 平成29年1月25日(水)～2月6日(月)

会場 国立新美術館
作品数741点 入場者5,155人

ギャリートーク 1月26日(木)午後2時～3時

石川天瓦名誉顧問、森井翠鳳顧問、風岡五城理事長、高橋照弘副理事長、鎌田悠紀子常務理事、黒田浩芳常務理事、眞田朱燕常務理事

贈賞式・祝賀会 1月26日(木)午後4時～6時
乃木会館

第33期 事業計画

◆第34回産経国際書展 審査会

会 期 平成29年 5月23日(火)～5月26日(金)

会 場 シアター1010ギャラリー

※5月22日(月)は作品搬入、懇親会

◆2017ジュニア書道コンクール 審査会

会 期 平成29年 6月27日(火)～28日(水)

会 場 東京都美術館 地下3階第2作業室AB、
審査室AB

◆第34回産経国際書展

会 期 平成29年 7月27日(木)～8月3日(木)

※展示替えは31日(月)

会 場 東京都美術館 ロビー階、1階第1室～
4室(計8室)

贈賞式・祝賀会 8月1日(火)明治記念館 午後4時～

◆2017ジュニア書道コンクール

会 期 平成29年 7月27日(木)～8月3日(木)

※展示替えは31日(月)

会 場 東京都美術館 2階第4室

贈 賞 式 7月29日(土)東京都美術館講堂 午前11時～

◆平成29年度夏期研修会

会 期 平成29年 8月19日(土)、20日(日)

会 場 群馬研修館

◆第34回産経国際書展 東北展

会 期 平成29年 9月15日(金)～9月20日(水)

会 場 せんだいメディアテーク

贈 賞 式 9月18日(月・祝)ホテルメトロポリタン仙
台 午後3時～

◆平成29年度秋期研修会

会 期 平成29年 9月17日(日)

会 場 プリーゼプラザ(大阪市北区梅田)

◆第34回産経国際書展 中部展

会 期 平成29年11月14日(火)～11月19日(日)

会 場 愛知県美術館ギャラリー

贈 賞 式 11月18日(土)キャッスルプラザ 正午～

◆第34回産経国際書展 瀬戸内展

会 期 平成29年11月21日(火)～11月26日(日)

会 場 広島県立美術館

贈 賞 式 11月23日(木・祝)広島ガーデンパレス
午後2時～

◆第34回産経国際書展 関西展

会 期 平成29年11月28日(火)～12月3日(日)

会 場 大阪市立美術館

贈 賞 式 12月3日(日)天王寺都ホテル
午後12時30分～

◆第34回産経国際書展 新春展

会 期 平成30年 1月24日(水)～2月5日(月)

会 場 国立新美術館

贈賞式・祝賀会 1月25日(木)
レストラン ペニーレ・ペニーレ
午後4時～

※来年度以降のスケジュール(予定)

第35回展記念「2018日本台湾交流書道展」

平成30年10月30日(火)～11月4日(日)

台北・國立國父紀念館

第32期 決算と第33期 予算

区分	第32期	
収入	予算	実績
	会費収入等	91,700,000
	91,700,000	91,423,623
支出	事業費	16,900,000
	16,900,000	17,781,244
	国際書展出品料	33,150,000
	33,150,000	32,310,000
	その他運営費等	41,650,000
	41,650,000	42,442,601

第33期	備考
予算	
92,400,000	
16,900,000	
32,550,000	
42,950,000	35周年準備費140万円

会費収入(単位:円)

区分	第32期決算	第33期予算
審査会員	54,334,500	54,630,000
無鑑査会員	18,704,000	17,900,000
会友	18,246,000	19,870,000
計	91,284,500	92,400,000

出品料(単位:円)

区分	第32期決算	第33期予算
審査会員(3万円)	18,090,000	18,000,000
無鑑査会員(2万円)	7,460,000	7,400,000
会友(1.3万円)	6,760,000	7,150,000
計	32,310,000	32,550,000

第 33 期 産経国際書会役員

【会 長】	熊坂 隆光						
【会長代行】	伊藤 富博	福本 雅保					
【最高顧問】	齋藤 香坡	田中 鳳柳	村越 龍川				
【名誉顧問】	石川 天瓦	佐々木月花	竹澤 玉鈴	手島 泰六	平方 峰壽		
	本多 道子	山下 海堂					
【常任顧問】	今口 鷺外	佐藤 志雲	佐藤 青苑	島村 谿堂	青陽 如雲		
	納谷 古石	原田 圭泉	松本 美娜	吉田 玉雲			
【顧 問】	五十嵐光子	小名 雪王	加藤 深流	白崎 菖汀	樽谷 龍風		
	三上 錦水	宮崎 春華	森井 翠鳳				
【客員顧問】	霧林 道義	齊藤 華秀	高畑 常信	武田 厚	竹中 幸生		
	趙 白鶴	平方 研水	劉 洪友				
【参 与】	大川 峽暮	岡 美知子	木村 春峰	久保 翠雪	夏堀 竹翠		
【副 会 長】	生田 博子	岩田 正直	田村 政晴				
【名誉理事長】	伊藤 欣石						
【理 事 長】	風岡 五城						
【理事長代行】	渡邊 麗						
【副理事長】	今田 篤洞	岩浅 写心	岩間 清泉	勝田 晃拓	金丸 鬼山		
	小林 静洲	坂本 香心	高頭 子翠	高橋 照弘	武富 明子		
	寺尾 桂翠	正川 子葉	松崎 龍翠	村田 白葉			
【事務局長】	糸 雅人						
【常務理事】	赤堀 翠柳	浅香 秀子	石井 長慶	石川 陽竹	泉 芳秋		
	磯邊 哲舟	伊東 玲翠	岩下 鳳堂	岩田 蕙雨	上野 鶴陽		
	上村 陽香	江戸 秀虹	遠藤 乾翠	大橋 玉樹	岡本 杏華		
	小川 艸岑	小名 雪揺	小野 亭良	織茂 香葉	貝瀬 芳雨		
	鎌田悠紀子	黒田 浩芳	見學 素影	小杉 修史	五月女紫映		
	眞田 朱燕	澤田 香墨	須藤 松閑	世木田江山	高木 撫松		
	竹内 小逕	多田 游硯	戸叶 幽翠	戸田 汀香	長尾 佳風		
	永田 龍石	中野 和博	西尾 秀誠	野崎 俊江	橋本 旭石		
	人見 恵風	堀江 宣久	町山 一祥	松井 玲月	望月 曉云		
	山本 晴城	吉田 永欽	渡辺 祥華				
【専管理事】	青木 錦舟	伊藤 春魁	今井 翠泉	岩村 恵雲	遠藤 香葉		
	遠藤 有翠	大庭 清峰	奥村 桃嘩	小野澤美香	加藤 香誓		
	鴨田 茜竹	菊山 武士	木住野 栄	北川 佳邑	北野 香春		
	木村 大澤	後藤 教子	小林 紫雲	近藤 豊泉	佐藤 志陽		
	篠原 秀朋	島田 紫笙	莊司 欣水	鈴木 愚山	鈴木 青苑		
	鈴木 博子	鈴木 祐洞	○鈴木 蓉春	建部 恭子	谷 桂風		
	中野 桂月	中村 雪鷺	西尾 蘭畦	西川 万里	羽根田和香		

	馬場 芳苑	久田 方琥	菱沼 東坡	細越 玉蓮	眞々田 壽扇
	三橋 和泉	諸留 大穹	吉野 富龍	渡部美恵子	
【理 事】	青柳 光草	赤池 溪舟	安蒜 欣青	生田 佳葉	石井 思水
	石井 松苑	石井 理春	○伊藤 牙城	岩田 和道	上田 智子
	梅内 春藍	梅原 凜溪	江口 溪流	及川 扇翠	老川 揺舟
	大川 詢子	大澤 芳洲	大田 桂水	大八木雅山	岡野 蒼生
	岡村 公裕	奥村 耕雲	小野 左鷺	恩田 瑞貞	影山 瑤琴
	梶谷 綾泉	梶原 碧川	加藤 竹藜	加藤 美玲	加藤 芳珠
	川井 恵風	菊地 瑛華	小泉 玲洸	○小杉 秀花	小林 千津
	小宮 求茜	斎藤 秀翠	斎藤 修竹	酒井 竹風	佐武 照聲
	佐藤 深雲	鐘 旭孫	沈 彊	菅原 有恒	杉原 靜花
	関根 史山	関根 春峰	瀬戸 桂舟	高橋 峰雪	○武 翠泉
	竹内 美翠	○竹増 陽子	橘 圭子	田中 龍洌	辻 和雲
○鶴田 秀紅	富田 静流	中井 庭峰	長瀬 沙焱	芳賀 祥緑	
林 龍成	平岡 雄峰	平本 一恵	細井 清琴	松岡 輝峰	
松岡 篁月	松岡 舟波	宮川 彩子	宮平 翠玲	村瀬 敢山	
室伏 雅簪	森谷 草翠	○山田 華萌	山田 秀園	山村 鳳羽	
吉本 麗竹	陸 岷卿				
高野 彩雲	田村 美雪				
【監 事】	赤澤 幸峰	有友 啓扇	井形 大正	石井 政子	石川 杏華
【評 議 員】	石川 溪舟	石川 秀苑	石川 由美	石黒 鴻羽	市川 汀鶴
	稲葉 竹苑	今井 軒石	岩間 桃香	植田 泰之	老本 静香
	黄木 孝一	大木 翠晃	大段 栄泉	大場 映翠	岡林 御舟
	荻野 侑邨	奥 達子	刑部 翠風	○小田 りつ	小谷 翠谷
	小名 玉花	柿添 智泉	梶井 香龍	加柴 律子	加藤 桂谷
○加藤 松亭	加藤 石泉	加藤 遊墨	河原畑静楊	木谷 峰水	
○熊切 溪石	久米 麗鳳	小嶋カズ子	小高 玉令	○五戸 光岳	
今野 美晃	酒本 淑子	佐久間撫扇	○櫻井 溪雲	定野 桂雪	
里 芳倫	佐藤マス子	澤村 春泉	篠原 寒鵬	柴山 枝峯	
○鈴木 暁昇	鈴木 尚甫	○鈴木 蒼	鈴木 邦仙	鈴木 葉光	
須田 紅鸞	○諏訪 春蘭	○染谷 春慶	高田 華光	高野 撫雪	
○高橋 峰月	田島 青谷	田代 翠龍	橘 黄華	田端 香峰	
玉木 白雲	玉田 子翠	田村 恵子	塚原 桃虹	土田 芳水	
中川なほみ	中島 雪遥	中島 貞鵬	永田 昌子	中塚 龍華	
中平 博子	成山 一葉	長谷川明扇	波多野久美	羽根田菖風	
○早坂 喜伊	林 弘子	原田 統玄	藤村 満恵	降幡 加津	
古谷 華楓	古谷 紫水	星 旭芳	○堀川 梨華	○前田 聖峰	
町田 昌畦	松岡 静仙	松戸 清玲	松永 光鳳	水原 白姚	
三谷 旭心	○蓑口 草川	三宅 秀紅	宮崎 礼子	村越 弘鷹	
本橋 春景	森 紀生	森田 香深	矢崎 藤香	山口 了世	
山下 翠風	山田 娃泉	○山本てるみ	横田 玉華	横溝 景陽	
米山 石峯	ラモス 逸子	我妻 信子	渡邊 正峰	渡邊 龍泉	

第 33 期 産経国際書会運営委員

- 総務部 担当副理事長 岩間清泉
 部長 浅香秀子
 委員 高木撫松、戸叶幽翠、人見恵風
- 会報・広報部 担当副理事長 高頭子翠
 部長 小川艸岑
 委員 影山瑤琴、早坂喜伊、渡邊麻衣子
- 企画部 担当副理事長 金丸鬼山
 部長 岩村恵雲
 委員 大八木雅山、恩田瑞貞、北野香春
- 研修部 担当副理事長 勝田晃拓
 部長 五月女紫映
 委員 木住野栄、永田龍石、松岡篁月、眞々田壽扇
- 教育部(ジュニア育成)
 担当副理事長 高橋照弘
 部長 眞田朱燕
 委員 生田佳葉、小林紫雲、今野美晁、里芳倫、高野彩雲、前田恵泉、
 宮平翠玲
- 渉外部 担当副理事長 坂本香心
 委員 遠藤香葉、鎌田悠紀子、鈴木博子
- 研修館 担当副理事長 坂本香心
 委員 小名雪揺、諸留大穹
- 会員増加企画
 担当副理事長 正川子葉
 委員 久田方琥、山田娃泉

第 34 回 産経国際書展実行委員会

●実行委員長	田村政晴	
●審査本部長	村田白葉	
●漢字部	部長	永田龍石
	主任	今井翠泉、鈴木青苑
	委員	石川晴空、菅井裳雲、武翠泉、本橋春景、横溝景陽、吉野富龍
●かな、篆刻・刻字、臨書、U23部	部長	宮川彩子
	委員	岩間桃香、諏訪春蘭、関根春峰、松岡瑠月
●現代書部	部長	松井玲月
	副部長	西川万里、諸留大穹
	委員	加藤石泉、佐藤翠香、長岡輝美、早坂喜伊、平岡智子
●搬出入部	顧問	青陽如雲
	部長	磯邊哲舟
	副部長	伊東玲翠
	委員	今井軒石、梶谷綾泉、櫻田恵香、佐藤マス子、塚原桃虹、飛世彩水、細谷紫水、山下翠風
●陳列部	顧問	勝田晃拓
	部長	山本晴城
	副部長	渡邊祥華
	委員	安蒜欣青、石川溪舟、泉芳秋、伊藤春魁、老川揺舟、大場映翠、岡村公裕、加藤松亭、五戸光岳、鈴木蓉春、関根史山、中野和博、三橋和泉
●図録部	部長	今田篤洞
	副部長	岩村恵雲、眞々田壽扇
	委員	河原畑静楊、久米麗鳳、小林紫雲、近藤豊泉、高野撫雪、高橋峰月、武翠泉
●東京	部長	武富明子
	副部長	浅香秀子、岩田蕙雨、黒田浩芳
	委員	岩間桃香、近藤豊泉、平本一恵、山下翠風
●東北展	顧問	本多道子、田村政晴
	実行委員長	松崎龍翠
	副実行委員長	奥村桃曄
	事務局長	建部恭子
	実行委員	大橋玉樹、小嶋カズ子、酒本淑子、田村恵子、芳賀祥緑、森紀生、宮崎礼子、渡部美恵子、渡辺龍泉
●中部展	顧問	村越龍川、風岡五城
	実行委員長	村田白葉
	副実行委員長	勝田晃拓、竹内小逕、山本晴城、渡邊祥華
	実行委員	赤堀翠柳、磯邊哲舟、伊藤春魁、老川揺舟、岡本杏華、奥村耕雲、菊山武士、木村大澤、小泉玲洗、佐武照聲、田中龍渕、松岡輝峰、村瀬敢山、吉田永欽
●関西展	顧問	平方峰壽、今口鷺外、樽谷龍風
	実行委員長	正川子葉
	副実行委員長	久田方琥
	実行委員	小野亭良、長尾佳風、谷桂風、中村雪鷺、西尾蘭畦、生田佳葉、篠原秀朋、竹内美翠、山田秀園、山田娃泉
●瀬戸内展	顧問	寺尾桂翠、宮崎春華、森井翠鳳
	実行委員長	世木田江山
	副実行委員長	大庭清峰
	実行委員	上村陽香、吉本麗竹、大田桂水、石井思水、平岡雄峰、大段栄泉、田中春畝、曾根小徑、美之口琴晴

第34回 産経国際書展 審査員

●特別選考委員

伊藤欣石、角井博、齋藤香坡、佐藤青苑、晋鷗、竹澤玉鈴、田中鳳柳、手島泰六、原田圭泉、平方峰壽、村越龍川、山下海堂、吉野毅、若林覚

●漢字

岩下鳳堂、大庭清峰、恩田瑞貞、勝田晃拓、北野香春、小関麗翠、坂本香心、佐藤志雲、眞田朱燕、高木撫松、長尾佳風、宮崎春華、山本晴城、和田玲砂

●かな

伊藤春魁、今口鷺外、小名雪揺、鎌田悠紀子、武富明子

●現代書

岩浅写心、加柴律子、川村圭子、小久保里子、小杉秀花、小林千津、荘司欣水、田村美雪、富田静流、藤井峯子、堀江宣久、正川子葉、山田秀園

●篆刻・刻字

石井長慶、風岡五城、森井翠鳳

●臨書

岩田正直、金丸鬼山、五月女紫映、青陽如雲、渡邊麗

●U23

加藤芳珠、高頭子翠、高橋照弘、人見恵風、松崎龍翠



昨年(第33回展)の審査風景より

新しく審査会員になられた方

愛澤奏剣	新井翠風	井上裕水	内田簀山	宇根龍戒	大久恵華	加畑理亜	河口美櫻
塩川翹龍	白石百合子	関口香雪	千田嘉穂	十川桂舟	曾根小徑	高橋香鶴	建部紘子
田中香雪	中村香風	法月秀峰	春名蕭風	日野翔鳳	藤木八重子	別府桂苑	星野葉柳
三好美江	山沖春蘭	吉川馨泉					

新しく無鑑査になられた方

愛智勝江	赤間裕子	飛鳥井芳香	五十嵐光泉	生田京子	石嶺友佳子	一ノ瀬翠雲	伊藤数馬
伊東洋子	井上醉生	井上千津子	井上壽子	植田清峰	植竹幸子	大沢玉鳳	大澤苔翠
大平美侑	岡野彩雲	小川翠玉	小野田龍城	小野寺祥子	笠原浩義	鹿島彩風	加藤欣遥
金澤紫苑	日下部清華	河野光映	佐々木小扇	佐藤ゆき	下野徑泉	出羽雅陽	友野美豊
中村未来	新島繁恵	秦 祐子	肥田紅華	福島恭子	古田蘭紐	細谷紫水	松沢緑芳
松永紫泉	光友爽茜	向井麗水	村田真梨子	山下蒼月	渡辺千代恵		

新しく会友になられた方

青木芳泉	青根千景	秋山峻一	浅岡桃苑	朝倉久枝	安達桃紅	五十嵐梢	井沢環麗
石川光苑	石原圭芳	石原啓瑤	泉 鳩邨	稲葉淳子	井上すみ子	猪浦明翠	井村志峰
上垣旭央	上釜美由紀	植草光苑	上田綾美	上村良子	内山硯翠	浦畑恭子	海野しずか
江口貴峰	江本清夏	大石慈宝苑	大久保節子	大河内志保子	大橋栄美	大山ゆかり	岡坂彩逍
緒方由紀子	岡本桂草	奥川光華	小野寺聖乗	折本多栄	河西香峰	勝又明子	加藤信和
鐘築重治	加納蕙風	鎌田嘉壽	亀井稜石	亀山鳳琳	川田芳樹	川村大観	国井丹瑩
久保芳彩	窪田青耀	熊川まゆみ	グリーン薫	小池路華	小林 郁	小薮まゆみ	小陽孝浩
齋藤雅貴	佐伯香潔	酒井春蘭	坂部翔友	櫻田佳子	佐藤早苗	佐藤紫音	佐野香翠
佐野清風	塩澤鈴華	鹿野紅葉	上甲白嶺	杉沢慶子	杉原寿美	鈴木京子	鈴木祥扇
鈴木龍星	須藤敦子	須藤恵美子	関 秀岳	染谷照月	代島翠葉	高津佳代子	高梨清雲
高橋穂波	高松谿雪	高山幸子	竹中光順	竹花晴夫	田中春水	棚橋藍水	谷川仁美
玉木光華	千葉道子	坪石孝子	寺坂青畝	冨田かね子	中根静流	長野佳子	中部紫苑
中村紅舟	中村芝陽	中村青秀	西川遷石	西川玲華	西田子峯	西野 文	蕪塚麗鳳
丹羽新葉	根本芳枝	野崎久雨	橋爪玉雪	橋本浪溪	長谷川静泉	花井萃川	馬場睦子
濱口章子	浜田千壽	林 馨泉	福田 恵	逸見涉仙	堀川雲峰	前田瑞季	牧野翠苑
松永梅光	松林麗泉	松本明子	丸橋都風	三浦玉華	水元光明	三井紀子	三宅和晃
宮崎曄鳳	虫明智恵子	武藤久美子	村瀬恵風	森川圭花	安田泰也	柳澤夢苑	山口 恵
山崎深翠	山田豊鶴	山田政継	山中典子	横尾春風	吉岡朱永	吉田粹京	若生和子
渡辺吾風	渡辺トク子	渡邊洋子					

第33回 産経国際書展 新春展

第33回産経国際書展新春展は1月25日(水)から2月6日(月)までの12日間、東京・六本木の国立新美術館で開催いたしました。

31回目を迎える「代表展」は205点が展示、審査会員、無鑑査が出品する新春展Ⅰには昨年より11点多い129点が出品されました。また、大作は2点のみの展示となりました。会友と一般を対象とした公募部門である新春展Ⅱでは405点の応募があり、会友奨励賞6点、産経新聞社賞5点、奨励賞31点が選ばれました。

26日(木)は、石川天瓦名誉顧問、森井翠鳳顧問、風岡五城理事長、高橋照弘副理事長、鎌田悠紀子常務理事、黒田浩芳常務理事、眞田朱燕常務理事の7人の先生方が自作についてお話しをいただくギャラリートークを企画、多くの皆様がお集まりいただき熱心に耳を傾けていました。また、その日は、場所を乃木会館に移して、祝賀会を開催し、新春展Ⅱの表彰もあわせて行いました。熊坂隆光産経新聞社社長、齋藤香坡、田中鳳柳最高顧問ら約160人が参加、賑やかに新年の交歓を深めました。

(事務局)



賑わう代表展



審査会員、無鑑査会員の作品が並ぶ「新春展Ⅰ」会場



自作への想いを語る高橋照弘副理事長



大作の前で説明する黒田浩芳常務理事



新春展はじまる

新春展を終えて

「あけましておめでとうございます」の言葉で会場に入る。今年も始まるのだと自分に言い聞かせると、自然と背筋が伸びる。私はこの新春展が一番好きだ。それは作者の一人一人の顔が見えるからだ。とらわれない気持ちで書いているからだろう。本展とは雰囲気がはっきりと違い、多くの人から「新春展はいいね」との声を聴く。参加している一人としてとても気持ちがいい。

作品集とは別に新春展特別版を手にとると、産経新聞社の書展に対する丁寧な対応が感じられる。それもカラー刷りで170点ほどの作品が掲載されている。自分の作品を目にした人の喜びが伝わってくる。

とりわけ、新春展Ⅱで入賞した人にとって、書に取り組む力になることは間違いない。是非、次代を担ってほしい。心からエールを送りたい。彼等の作品を見ながら、赤々と燃えていた半世紀前の自分を重ねてしまう。

長い道のりを歩いてきたものだと思いつつ、もうひと踏ん張りしなければと、自分にいいきかせる。



実行委員長 田村政晴



新春展Ⅱの受賞作品



乃木会館での祝賀会

産経国際書展35周年記念事業の第1弾として、平成30年秋に、「2018日本台湾交流書道展」(仮称)を台湾・台北市で開催します。産経国際書会としては、平成12年に同じ台北で開催した「産経国際書会代表作家台湾展」以来18年ぶりの海外展となります。35周年を迎えるに当たり、いま一度「国際」の原点に立ち返り、同じ漢字圏である台湾の最高峰の書家の方々との交流、友好親善を行おうというものです。

台湾展実行委員長は勝田晃拓副理事長、小川艸岑、山本晴城両常務理事に実行委員を務めていただきます。

今回は付帯事業として、ジュニアの交流展も開催。「2018産経ジュニア書道コンクール」(7月27日～8月3日、東京都美術館)の上位作品を展示するほか、地元のジュニアとの交流を計画しています。また、開幕にあわせてツアーを組み、台湾の先生方との交流会、揮毫会の公式行事のほか、故宮博物院などの見学、観光も予定しています。作品の応募締め切りは平成30年8月です。

35周年記念事業は、台湾展以外にも現在様々な企画を検討中です。詳細が決定し次第順次発表していきますので、どうぞお楽しみに。



◆第35回産経国際書展開催記念 「2018日本台湾交流書道展」(仮称) 計画案◆

実施時期 平成30年10月30日(火)～11月4日(日) 予定

会場 国立國父紀念館(台湾・台北市)

主催 産経国際書会 産経新聞社
 中華民國書學會 国立國父紀念館

作品 約260点(日本約210点、台湾約50点)、作品はまくりで台北に運び、現地で額装(貸額のみ)、表装を行います。

作品寸法 3×6尺(縦)、2×8尺(縦)、全紙(縦、横)、半切(縦)、全紙(小画箋) 2分の1 (70×70cm) = 以上予定

出品資格 審査会員以上

出品料 5万円(額装、表装、輸送費を含む。図録1冊贈呈)

締切 平成30年8月11日 予定

「第34回 産経国際書展」特別色紙展の募集

第34回産経国際書展で昨年に引き続き特別色紙展を行います。

この特別色紙展は第21回産経国際書展からはじまり今回で9回目となります。高円宮妃久子殿下から、いつまでも無理なく書に楽しく取り組んでいただけるようにという思いで、毎回御題を下賜していただいております。

下記の要領にて実施いたしますので、資格のある先生方は奮ってご出品ください。

記

御 題	「勢」あるいは「豊」 どちらかを選んでください。
展示場所	東京都美術館ロビー階(予定)
期 間	平成29年7月27日(木) ～ 8月3日(木)
作品体裁	色紙(273mm×243mm) ※数ミリの誤差はかまいません。
出 品 料	無料
出品資格	80才以上の会員。但し本展出品者に限ります。 ※会友以上、昭和12年以前(12年生まれは含む)に生まれた先生
締 切	平成29年6月9日(金) 必着
応 募	出品票に必要事項(氏名、住所、団体名など)を記入の上、作品と一緒に 下記搬入先まで直接お申し込み下さい。
搬 入 先	藤和額装(株) 〒234-0054神奈川県横浜市港南区港南台7-51-12 T E L 045 (833) 5273 F A X 045 (833) 5275

◎応募いただいた作品は全て額装して東京本展に
展示します(額装代は書会負担)。

◎各地方展へは当該地方在住者の作品を展示しま
す。

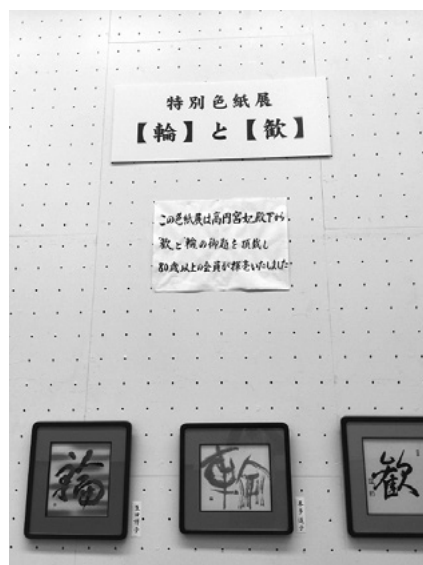
◎作品は展覧会図録に掲載します。

◎作品は展覧会終了後、額装のままご返却いたし
ます。

【問合せ】産経国際書会事務局

T E L 03-3275-8902

F A X 03-3275-8974



昨年の色紙展より

文字をいじめないで

産経国際書会
常任顧問
青陽如雲



昨今の書展では古代文字に挑戦する人が多くなったことを喜んでいるのであるが、嘆かわしいことは誤字の多いことである。

夏の研修会でも、金文の誤字を指摘したが、誤字を防ぐには、何よりも信頼できる字典をよく見ることである。文字は時代の落とし子と言ってもいいくらい、時代によって変わっている。金文は西周の時代に使われた文字で2500字ほどしかない。そこで当時は存在しなかった字は作字するとか、それ以前の時代の甲骨文字を流用するとか工夫をこらすことになる。

それはそれで許されるのだが、書作品にするときデフォルメせざるを得ないケースに出くわした場合、原型をいじめ過ぎて、誤字になる場合を多く見かける。草書などでも、デフォルメが過ぎて、何という字かわからなくなるケースをよく見かける。

間違いやすい例をひとつあげると、「月ヘン」の字が挙げられる。有、服、朗、朝、期などは「月」の部首の字で、漢和辞典では四画のところに示されている。ところが、肺、胸、脳、腸、腹などといった文字は、四画で調べても出てこない。このような人体に

関する月ヘンの文字の部首は、「肉ヅキ」といって六画になるからである。

このことを知っていないと、金文や甲骨の古代文字を書くときに大きな間違いを起こす。なぜなら、四画の月と六画の肉ヅキは、楷書だとどちらも「月」だが、古代文字では、四画の月は「𠄎」、六画の肉ヅキは「𠄎」となるからである。

書作にあたり、文字をいじめて、創作のすばらしさを出現させる作家もいるが、私は文字をあまりいじめないで創作する方法をとりたい。これが誤字に至らない王道であると信じている。

最後に、私が信頼できる辞書として利用しているものを挙げる。参考にさせていただけると幸いである。

古代文字の間違い例「胎」

◎正



胎

×誤



𠄎

<左は「肉ヅキ」の正しい文字、右は、「月」を使って作字した誤字>

新訂 字統	白川 静	平凡社	B 5	1136ページ	税別 1万8000円 (普及版税別6000円)
常用字解[第二版]	白川 静	平凡社	四六版	816ページ	税別3000円
朝陽字鑑精萃	高田 忠周	西東書房	A 5	1300ページ	税別6500円
篆隸大字典	赤井 清美	淡水会	B 5	1049ページ	1万2000円(送料込み)
標準清人篆隸字典 新装四版	北川 博邦	雄山閣	A 5	648ページ	税込7344円
総合篆書大字典	綿引 滔天	二玄社	B 5	664ページ	税込6480円

書 展 ト ピ ッ ク ス

第35回記念埼玉中央書道展

高木撫松

会期●1月27日(金)～2月1日(水) 会場●上尾市民ギャラリー

第35回記念埼玉中央書道展を1月27日より2月1日まで、上尾市民ギャラリーにて開催、昭和51年5月創立以来、若手の育成に注力してきた書展です。出品者125名、埼玉県知事賞1名、産経新聞社賞1名ほか、特選7名、若手出品者より新鋭賞6名、奨励賞11名の作品が会場を彩り、受賞者の喜びの笑顔が印象に残りました。



第80回龍峽書道展

会期●2月2日(木)～2月7日(火) 会場●東京都美術館

林龍成



2月2日(木)から7日(火)まで、東京都都美において「第80回龍峽書道展」が開催されました。413点の出展があり、また、学生部740点も併催し、3,441人の来場がありました。80回の節目として、「龍峽書道会を支えた諸先輩」29人の方の遺墨、80回の歴史をまとめたパネルも展示されました。7日(火)には、ギャラリートーク、授賞式が開催されました。

第35回公募・学生部併催煌心展

松崎龍翠

会期●2月15日(木)～2月21日(火) 会場●東京都美術館

都美において2月開催の煌心展は、全紙縦2枚のサイズを新設し、新鮮な雰囲気を感じて好評でした。ギャラリートークや初めての席上揮毫も所期の目的を達成し、聞く人、観る人から温かい声援と評価を得たことは、私達にとって大きな激励となりました。次代を担う学生部の出品も増え、ご家族の来場で満場の賑わいに感動いたしました。

今後ともご支援の程よろしくお願いいたします。



森井翠鳳顧問が作品を寄贈

(事務局)



森井翠鳳顧問は、平成28年12月に第32回産経国際書展で中国大使館文化部賞を受賞した「真如」ほか4作品を広島県竹原市の長養寺(浄土真宗本願寺派)に奉納しました。3作品は本堂に掛額で、残り1点は5尺×5尺の衝立に仕立てて対面所正面入口に置かれています。同寺の大内寛文・二十一世住職から感謝状をいただきました。

「朝けの空に」新聞連載題字を 齋藤香坡最高顧問が揮毫

昭和天皇の生涯を綴った「ふりさけみれば」(平成27年4月～28年7月産経新聞連載)の前日譚として、宮中の伝統保持に誰よりも尽くした昭和天皇の母である貞明皇后の生涯を振り返る物語「朝けの空に」を産経新聞で連載中です。今回は齋藤香坡最高顧問に揮毫をお願いし、暮れの忙しいときにもかかわらず快くお引き受けいただきました。是非、産経新聞でお読みください。



車いすの人への書道指導

煌心書道会(松崎龍翠会長)では、日本唯一の脊髄損傷者専用トレーニングジムJ-Workout(伊佐拓哲社長)と協力して昨年11月と今年1月の2回、交通事故による受傷で車いす生活を余儀なくされている方々への書道指導を行いました。

1月30日は、黒田浩芳常務理事が、伊佐社長と同ジムに通う内村美由紀さん(36)、片山浩大さん(29)、仙田佳帆さん(19)の3人を指導。3人はいずれも書道は未経験。黒田先生の用意したお手本をもとに約1時間、筆を握るところから始めて、半切2分の1に署名まで見事に書き上げました。20歳の時に交通事故で頸椎を損傷し、両手の握力が十分でない片山さんは補助具を使い、指先に筆をくくりつけての挑戦でしたが、古代文字の金文で、「一日一歩」と名前も書き込み、見事な作品に仕上げました。片山さんは、「事故以来ペンを持つのも初めてでどうなるかと思いましたが、とても楽しく集中できました」と興奮気味に感想を語りました。

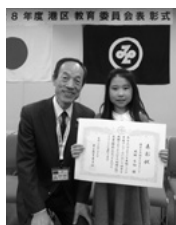
指導にあたった黒田常務理事は、「皆さんに楽しく書いてもらいたいと思い、金文を題材にしましたが、素晴らしい作品ができました。皆さんの努力と集中力には本当に頭が下がります」。同会では、2020年東京パラリンピックに向け、こうした活動を継続して行っていく予定です。※この模様は、国際書会のホームページ(<http://www.sankei-shokai.jp/>) / 事務局(福本雅保)



ジュニア展受賞者に区表彰

自治体が年度末に行っている教育委員会表彰で、「2016年産経ジュニア書道コンクール」東京都知事賞の松尾たからさん(荒川区立第四中3年)、ジュニア賞の高山莉彩さん(同中2年)が荒川区から、いきいき賞の飛田千怜さん(港区立高輪台小3年)が港区から表彰を受けました。3人はともに桑文会の所属。気持ちを新たに、4月の進学、進級後もさらに継続してはげめたいといっていました。

書会では、ジュニアコンクールの特別賞受賞者の校長先生あてに受賞の御報告を行っているほか、希望する方には受賞証明書(内申書などに使用できる)の発行も行っています。ジュニア展での活躍をもとにさらに大きく羽ばたいていただきたいものです。



飛田千怜さん



松尾たからさん(左)、
高山莉彩さん(右)



国井誠海賞に馬場、熊谷両氏

現代書分野の次代を担う若手書家を顕彰する「公益信託 国井誠海書奨励基金」の第20回顕彰者が発表され、誠心社で産経国際書会会友の馬場睦子氏(48)＝写真＝が、創玄書道会の熊谷咸集氏(50)とともに受賞されました。20回の記念展は9月17日から21日まで東京・上野の森美術館で行われ、過去の受賞者による作品や、国井誠海の未発表作品も展示されます。

産経新聞「墨と筆」の連載が100回達成！

産経新聞東京本社版に連載されている「墨と筆 産経国際書会だより」(毎月末の金曜日掲載)が、4月28日付で第100回を迎えました。第1回は平成21年10月10日付。2代目理事長で当時名誉顧問だった田中鳳柳先生を取り上げました。以来7年半にわたり、書会メンバーにご登場いただき、作品にかける思いや書にまつわるエピソード、お人柄を紹介してきました。第100回は特別版として村越龍川最高顧問が登場されています。書会のホームページ(<http://www.sankei-shokai.jp/>)に掲載されており、第20回からはバックナンバーも読むことができます。見逃した方、東京本社版を読めない方はぜひこちらをご覧ください。(事務局)

各会書展お知らせ(産経新聞社後援)

〈平成29年5月～10月〉 ①会期 ②会場 ③代表名

5月

第42回梓書道会展

- ①5月13日(土)～5月14日(日)
- ②タワーホール船堀
- ③市原 蘇水

書人クラブー21世紀17年展ー

- ①5月19日(金)～5月21日(日)
- ②にいざぼっとぶらざ
- ③岩村 恵雲

第44回鍾雲書道展覧会

- ①5月20日(土)～5月21日(日)
- ②寄居町立総合体育館・アタゴ記念館
- ③大澤 芳洲

6月

郁泉・美彰 刻書二人展

- ①6月2日(金)～6月7日(水)
- ②高崎シティギャラリー 第2展示室
- ③石井 長慶

ゼロ書展

- ①6月5日(月)～6月9日(金)
- ②ギャラリーやまざき
- ③齋藤 香坡

尚友会65周年記念書展

- ①6月14日(水)～6月18日(日)
- ②プラザヴェルデ市民ギャラリー
- ③岩間 清泉

2017年誠心社現代書展

- ①6月15日(木)～6月21日(水)(19日休館日)
- ②東京都美術館 1階第4展示室
- ③渡邊 麗

第41回公募斯華書展

- ①6月16日(金)～6月18日(日)
- ②東京銀座画廊美術館 7F
- ③小野 之右

第34回蕉邦会書展

- ①6月20日(火)～6月25日(日)
- ②銀座 鳩居堂画廊4F
- ③人見 恵風

第53回書峰展

- ①6月24日(土)～6月25日(日)
- ②秩父 じばさんセンター
- ③小林 静洲

第10回記念青成会書展

- ①6月27日(火)～7月2日(日)
- ②銀座大黒屋ギャラリー 6・7F
- ③須藤 松閑

7月

長慶・松苑 夫婦展ー刻書と絵ー

- ①7月4日(火)～8月6日(日)(7月10日、18日、24日、31日休館日)
- ②埼玉伝統工芸会館
- ③石井 長慶

2017臨泉会選抜小品展

- ①7月11日(火)～7月16日(日)
- ②銀座 鳩居堂画廊
- ③佐々木 月花

8月

第46回墨林綜合書展 併催 第46回学生墨林綜合書展

- ①8月5日(土)～8月11日(金)(7日休館日)
- ②東京都美術館 2階第1展示室
- ③遠藤 乾翠

米沢に輝け 書の仲間たち展2017

- ①8月8日(火)～8月13日(日)
- ②よねざわ市民ギャラリー 第2～第4室
- ③大久 恵華

第40回記念墨晨書道会“墨の祭り”

- ①8月18日(金)～8月21日(月)
- ②埼玉会館
- ③岩田 正直

光風書院創立72周年五十嵐光子記念展

- ①8月22日(火)～8月27日(日)
- ②銀座清月堂画廊 2F
- ③五十嵐 光子

9月

泉の会作品展

- ①9月5日(火)～9月10日(日)
- ②四街道市市民ギャラリー
- ③梶谷 綾泉

全国臨書模刻展

- ①9月8日(金)～9月10日(日)
- ②埼玉会館
- ③岩浅 写心

第34回日本綜合書作院展

- ①9月5日(火)～9月10日(日)
- ②大阪市立美術館
- ③篠原 秀朋

公益信託 國井誠海書奨励基金 二十周年記念書展

- ①9月17日(日)～9月21日(木)
- ②上野の森美術館 1階
- ③渡邊 麗

第31回国際芸術文化交流展

- ①9月18日(月)～9月23日(土)
- ②ヴェトナムハノイの韓国文化院
- ③鎌田 悠紀子

10月

第67回公募洸風会書道展

- ①10月7日(土)～10月9日(月)
- ②熊谷市中央公民館 大ホール
- ③岩下 鳳堂

第30回記念研友社展

- ①10月10日(火)～10月15日(日)
- ②東京銀座画廊美術館
- ③田中 鳳柳

第23回龍峽書道会役員展

- ①10月10日(火)～10月15日(日)
- ②銀座 鳩居堂画廊
- ③林 龍成

2017菰水清秀書展

- ①10月17日(火)～10月22日(日)
- ②東京銀座画廊美術館 8F
- ③今田 篤洞

第42回煌心同人書展

- ①10月18日(水)～10月22日(日)
- ②銀座かねまつホール 5F
- ③松崎 龍翠

第49回一煌会書展

- ①10月19日(木)～10月21日(土)
- ②銀座洋協ホール(ギャラリーセンタービル6階)
- ③石川 天瓦

五月女紫映パリ個展

- ①10月19日(木)～10月27日(金)
- ②パリ、サンジェルマン・デ・プレ(エチエンヌ・ドゥ・コーザン・ギャラリー)
- ③五月女 紫映

第29回書心会書展

- ①10月20日(金)～10月22日(日)
- ②所沢市民文化センター(ミュージアム)展示室
- ③加藤 深流

第27回遊心書道会展

- ①10月20日(金)～10月22日(日)
- ②広島県民文化センター 地下展示室
- ③大庭 清峰

第5回海游舎書展

- ①10月20日(金)～10月25日(水)
- ②埼玉会館
- ③山下 海堂

第3回方琥書院書画展

- ①10月26日(木)～10月31日(火)
- ②茨木市立ギャラリー
- ③久田 方琥

追 悼

次の先生方が黄泉につかれました。

本会での活躍とご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。(敬称略)

無鑑査 木村 翠(平成28年10月) 会友 森 久美子(平成29年1月)
会友 西村 和風(平成29年3月) 会友 高橋 真季(平成29年4月)

編集後記

トランプショックで幕を開けた2017年。

その旋風が世界各地及び日本にも吹き荒れ、歴史の大きな転換点を感じさせます。

第33回新春展が開催され、円熟味を増した作品が並ぶ会場は連日多くの来場者で賑わいました。

平成29年度の総会が行われ、来年に控えた35回記念展に向けて、各運営・実行委員会も始動しました。

今年は初めてジュニア展も同時開催され、より一層の盛り上がりが期待されます。

国際交流や若手の育成など、会員一丸となって推し進め、これからの書会を盛り立てていきましょう。

(影山 瑤琴)

(会報編集委員／高頭子翠、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、渡邊麻衣子)

表紙：題字揮毫は風岡五城理事長

編集・発行 平成29年5月号

〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2

産経新聞社事業本部内

産経国際書会事務局

TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974

<http://sankei-shokai.jp/>

<https://www.facebook.com/sankeishokai>

お願い

会員の皆様に住所・電話番号等の変更があった場合には事務局までご連絡くださいますよう、また、各会書展のお知らせは早めをお願い致します。